

令和2年度 研修紀要

第34号

# 翠 松

知識・技能を身に付け活用できる生徒の育成

～主体的・対話的な学びを取り入れた学習過程の工夫を通して～

沼田市立沼田東中学校

## 研究の概要・成果と課題

### 1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 知識・技能を身に付け活用できる生徒の育成  
副主題 ～主体的・対話的な学びを取り入れた学習過程の工夫を通して～

#### 生徒の実態との関わり

- ・知識・技能を、次の授業で生かすという意識が不十分である。
- ・思考を伴う課題に対して、意欲的に自分の考えを表現する力が弱い。

#### 指導の在り方との関わり

- ・それまでの学びと結び付けるような、単元及び題材の課題の検討と授業構成。
- ・生徒が主体的・対話的に学び合う学習過程の工夫。

### 2 研修内容・方法

#### (1) 具体化した目指す生徒像

- ・各教科で身に付けた知識・技能を、問題解決の場面等で相互に関連付けながら、より深く理解しまとめることができる。
- ・見通しをもって主体的に学習に取り組み、他者の考えを取り入れながら、自分の考えをより明確化し、表現することができる。

#### (2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ・それまでの学びと結び付けるような、単元及び題材の課題の検討と、めあてから振り返りまでの授業構想の工夫。
- ・学ぶことに必要感をもちながら（主体的）、自分の思いや考えと他者の思いや考えを比較・関連させる（対話的）場面の設定。

### 3 研修計画・経過報告（裏面）

### 4 これまでの研修の成果と課題

#### ○成果

- ・アンケート結果から、学習内容の理解度は96%の生徒が「分かる・だいたい分かる」と答え、「自分の考えを書く・発表する・活動する」の項目では86%の生徒が「できる・だいたいできる」を選んでいった。
- ・授業には主体的に取り組み、知識・技能を活用して、お互いに学び合う生徒の姿が見られた。振り返りでは、自分自身の変容を記述していた生徒も見られた。
- ・個の考えを全体で共有する対話的な活動、教師のコーディネーター的役割、教育機器の活用、意図的な指名や支援を大切にされた授業など、コロナ禍で取り組める「主体的・対話的な学び」を取り入れた授業実践を積み上げることができた。アンケート結果では、授業改善について、「役立っている」「概ね役立っている」を選んだ教職員は100%となっている。

#### ○課題

- ・コロナ禍において、学習内容をこなしていくことと、対話的な学びを取り入れる授業改善に取り組むには、難しい年度であった。今後も、知識・技能を確実に定着させた上で、活用できる力をさらに伸ばしていく必要がある。

#### ○課題解決に向けての今後の取組

- ・知識・技能を確実に定着させ、活用させるために、「主体的・対話的な学び」を「深い学び」まで到達させるための学習過程の工夫、改善を行っていく。

### 3 研修計画・経過報告

指 指導案検討      授 研究授業・授業研究会

月日	研修計画（内容）	経過報告（○研修の視点・明らかになったこと）
4.20	・校内研修主題の確認	・副主題の決定。
5.18	・年間の計画、授業者の確認	・研修計画等の確認
6.15	・各教科の目指す生徒像	・目指す生徒像の検討（教科部会での確認）
7.21	授 数学科 田村教諭 单元名「文字と式」	○主体的、対話的な学びにつながる授業の流れ ・コロナ禍で可能な対話的な学びの場面として1人の考えを全体で考える手法は効果的であった。 ・ワークシートの工夫でスムーズな対話ができた。
8.31	・要請訪問Bに向けて	・2学期の校内研修内容について ・要請訪問Bまでの計画の確認
9.29	指 要請訪問B指導案検討①	○題材の決定と展開の流れについて ・自分の考えを広げるための交流場面の設定
9.30	授 理科 吉野教諭 单元名「力の合成」	○映像を使って対話的な活動を取り入れた学習 ・教師のコーディネーター的な役割。 ・討論の補助的な役割の動画、選択肢で自分の考え、理由を持つことができ、思考力の高まりにつながる。
10.14	授 保健体育科 植木教諭 单元名「走り幅跳び」	○情報機器を活用した走り幅跳びの課題解決学習 ・タブレットの活用は対話的な学びのツール。 ・4つの技能ポイントの設定（場の設定）が、生徒の主体的な学びにつながった。
10.16	授 学級活動 登坂教諭 单元名「学級をよりよくする提案について話し合おう」	○学級の課題を解決するため、合意形成のポイントに重点を置いた主体的な話し合い活動 ・クラスのことを自分のこととして捉え、意見を持つことができた。 ・話し合い活動における、生徒の意見の取り上げ方。教師側の支援の工夫。
10.26	指 要請訪問B指導案検討②	○指導計画と本時のねらい、評価項目等について ・主体的、対話的な学びの取り入れ方。 ・めあてから振り返りまでの1時間の授業の流れ。
10.28	授 理科 星野教諭 单元名「雲のでき方」	○天気学習（雲のでき方）で既習した知識を活用した課題の工夫 ・グループの学び合いでねらいが達成できた。 ・ワークシートの工夫、画像やモデルの利用が対話的な学びに効果的であった ・日常生活と結びつけた発展課題により、深い学びができた。
11.9	授 社会 津久井教諭 单元名「私たちの暮らしと経済」	○消費生活で学習したことを、生活に活用するための教材や活動の工夫 ・机間支援や意図的指名により、対話的な学びの工夫が行われた。 ・身近な広告等を使った魅力的な活動で、生活に結びつける意欲が高まった。 ・個を見取る力が、授業をうまく組み立てている。
11.16	指 要請訪問B指導案検討③	○目指す生徒像と授業の視点について ・授業の視点の具体化と、評価計画、評価項目とのつながりを意識する。 ・指導方針に1人1授業で積み上げたものを取り入れるとともに、目指す生徒像の吟味が必要。
11.17	・要請訪問Bに向けて	・授業参観についての確認。 ・研究会の流れの確認、当日までの役割分担。 ・各教科の目指す生徒像の確認。

11.25	授 社会 笹川教諭 单元名「東アジア世界との関わりと社会の変動」	<ul style="list-style-type: none"> <li>○鎌倉幕府の滅亡を理解するため、モンゴル襲来や御恩・奉公の主従関係の崩れを考察する活動</li> <li>・個人→班→全体の流れがよかった。班の発表で内容が膨らみ、対話的な学びを深めていた。</li> <li>・課題解決的な学習、学習形態の工夫、ICT機器の利用、教師の支援が主体的な学びにつながった。</li> </ul>
11.27	指導主事要請訪問（B） 授 国語科 高坂教諭 单元名「動物園でできること」	<ul style="list-style-type: none"> <li>○反論の根拠について考えを広げ、反論文がより説得力のあるものになるような、交流活動の工夫と支援</li> <li>・生徒が自らの学びを自覚できていたことが、振り返りにまとめられていた。</li> <li>・班の活動で意見が深まり、深めた他の班の意見も取り入れることで、学びが深まった。</li> <li>・班で交流し、よい点・改善点が確認できると、対話的な学びが深まるだろう。</li> </ul>
12.15	授 技術科 内田教諭 单元名「材料と加工」	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の製作品の構想を修正・改善できるための、グループでの交流の工夫</li> <li>・4つの視点を持っての話し合い、付箋の色や工夫が、対話的な学びにつながった。</li> <li>・題材の目標が提示されており、前時までの流れや今日の学習の視点が理解しやすい。</li> </ul>
12.21	・要請訪問Bのまとめ	・B訪問のまとめと今後の予定の確認。
1.25	授 数学科 町田教諭 单元名「三角形と四角形」	<ul style="list-style-type: none"> <li>○班での学び合いを利用した四角形の定理の証明</li> <li>・タブレットを活用した効率的な学び。</li> <li>・班での学び合いが生徒の理解につながっていた。</li> <li>・「めあてをつかむ、振り返りをする」活動の時間を保障することが大切である。</li> </ul>
1.25	・アンケートのまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果と課題、生徒の変容の確認</li> <li>・沼田市の教育、翠松について</li> </ul>
3.22	授 英語科 佐俣教諭・林教諭 单元名「英会話サーキット」	<ul style="list-style-type: none"> <li>○英会話サーキットを取り入れた授業実践</li> <li>・生徒が学んだことを生かし、英語で話そうとしている姿が見られた。</li> <li>・何度も会話することで、生徒が自分の気持ちをだんだん上手に伝えられるようになった。</li> </ul>
3.25	授 音楽科 南雲教諭 单元名「今年の漢字を曲にしよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>○楽譜ソフトを使った、主体的に取り組む作曲活動</li> <li>・ICT機器の活用により、楽器が演奏できない生徒も、意欲的に作曲をすることができた。</li> <li>・作曲ソフトの活用と教師のコーディネートにより、どの生徒もよい曲を作ることができた。</li> </ul>

【その他の研修】

月日	区分	講師	内容
7/20	服務規律	校内倫理委員会	個人情報管理、安全配慮義務
7/27	アレルギー対応	養護教諭	食物アレルギー、熱中症の防止について
9/15	生徒理解	茂木恵理子先生(SC)	生徒からのSOSをキャッチする方法
11/25	特別支援教育	長谷川健之先生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観</li> <li>・支援教育で大切なこと</li> </ul>
12/17	服務規律	校内倫理委員	ハラスメントについて
1/25	学習評価	指導主事	評価についての研修会
3/1	服務規律	校内倫理委員	服務ガイドラインについて

## ＜実 践 編＞

☆各教科における「目指す生徒像」

☆研究授業指導案

- ・ 国 語
- ・ 社 会
- ・ 数 学
- ・ 理 科
- ・ 英 語
- ・ 音 楽
- ・ 保 健 体 育
- ・ 技 術
- ・ 学級活動

## 目指す生徒像（令和２年度）

沼田東中学校

### 目指す生徒像の全体像

○見通しをもって主体的に学習に取り組み、他者の考えを取り入れながら、自分の考えをより明確化し、表現することができる生徒。

### 各教科における目指す生徒像

国 語	○既習の知識や様々な経験と結び付け、互いに話し合ったり自分の考えをまとめたりすることができる生徒。
社 会	○習得した知識・技能を活用し、進んで調べたり考えたりしたことを友達と話し合いながら明確にし、適切な表現で伝えることができる生徒。
数 学	○数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを主体的に活用して事象を他者の考えを取り入れながら論理的に考えたり、明確に表現したりする生徒。
理 科	○学習課題に対して、友達の意見を聞きながら自分の考えを修正・明確化し、実験・観察の結果や分かったことを自分の言葉でまとめることができる生徒。
英 語	○友達の考えを取り入れながら、既習の語句や文を用いて自分の考えや気持ちを伝え合うことができる生徒。
音 楽	○知覚・感受を友達と共有する活動を通して、さらに「音楽を形づくっている要素」の働きの感受を深め伝えることができる生徒。
保 健 体 育	○身に付けた知識や技能をもとに、互いに学び合う中で、課題解決の仕方を工夫し練習や試合に取り組むことができる生徒。
技 術	○生活の問題点から課題を設定し、その解決に向けて友達と話し合いながら自分の考えを修正し、実践できる生徒。

# 国語科学習指導案

令和2年1月27日(金) 第5校時  
2学年1組(男子17名、女子7名) 3階多目的ホール  
指導者 高坂 拓歩

## 授業の視点

反論の根拠を班ごとに模造紙に書き出し、それを見ながら反論の根拠を交流させたことは、生徒が反論文をより説得力のあるものになるよう、直したり、書き足したりするために有効であったか。

## 1 単元名 動物園でできること

### 2 考察

#### (1) 生徒の実態(男子17名 女子7名 計24名)

本学級は、授業中にほとんどの生徒が教師の話を集中して聞くことができ、学習に対して真面目に取り組んでいる。男女の人数差が大きい、男女間の仲がよく、お互いに協力し合いながら学習に取り組む姿が見られる。教師の質問に対してうまく答えられない生徒がいると、まわりの生徒が助言をして答えられるようにしてあげるなど、生徒同士で助け合える雰囲気もできてきている。

これまでの学習に対する生徒の実態は以下の通りである。

#### 【国語への関心・意欲・態度】

課題に対して、ほとんどの生徒が自分の考えをもつことができ、指名すれば自分の考えをしっかりと発表できる。国語の授業では、グループワークを多く取り入れており、生徒たちはグループワークを通して意欲的に友達と意見交流をし、それを踏まえて自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。

#### 【読むこと】

NRTの結果では全国比90であった。「説明的な文章を読むこと」の全国比が95、「文学的な文章を読むこと」の全国比が88であり、物語文の読み取りに比べると、説明文の読み取りの方が得意であるが、それでも全国平均は下回っている。日ごろの授業での様子を見ると、多くの生徒が文章を一読して大体的内容をとらえることができるが、一読しただけでは文章の内容を正しくとらえられない生徒も数名見られる。発問の際に補助発問をしながら、本文の内容や課題についてすべての生徒が正しくとらえた上で課題に取り組めるようにしている。

#### 【言語についての知識・理解・技能】

NRTの結果では全国比117であった。しかし、「語句や表現技法についての理解」は全国比が94である。日ごろの授業での様子を見ると、日常の会話ではあまり使われないような語句や表現が文章中に出てくると意味を正しくとらえられない様子が見られる。音読や活動の際に補足説明を入れるなどして、生徒が語句、表現の意味を正しくとらえられるようにしている。

#### (2) 教材観

第1学年では、説明的文章として「クジラの飲み水」「食感のオノマトペ」「玄関扉」「この小さな地球の上で」を学習してきた。特に「クジラの飲み水」は、動物を扱う説明的文章であったが、問い(疑問)が手順を追って解き明かされる科学的説明文であった。また、「この小さな地球の上で」では、地球や人間に対する筆者の考え方を読み取り、自分のものの見方や考え方を広げる学習をした。

本教材「動物園でできること」は、動物園に勤める筆者が、自身の実践をもとにして、動物園のあり方について論じた評論文である。筆者の動物園に対する見方や考え方を明らかにし、自分自身の動物園の見方を広げ、豊かにすることを目指したい。筆者は、「オランウータンの展示」、「ペンギンの散歩」、「エゾシカの展示」を事例として取り上げ、動物園が「楽しみ場」とであると同時に、「学び場」にもなる可能性を示唆する。そして、生徒は、筆者の論の展開を読み取りながら、動物本来の姿や環境、動物たちの魅力を読み取り、「学び場」としての動物園について

て理解を深めていく。また、例示の効果を検証することで、説得的な表現方法や事例を、いかに用いれば分かりやすくなるのかという点についても学んでいく。

本単元での学習を通して、生徒には、文章の全体と部分との関係や、例示の効果などに注意して筆者の主張を読み取らせるとともに、知識や体験と関連づけて、筆者の動物園に対する考えに対しての、自分の考えをもたせたい。

### (3) 教材の系統

学年	教材	指導事項	読み方を学ぼう
1年	クジラの飲み水 〈説明〉	・文章の展開をとらえる。 ・筆者の表現の工夫をとらえる。	説明文の基本構造
	食感のオノマトペ 〈説明〉	・事実と筆者の考えを読み分ける。 ・オノマトペの意味や効果について自分の考えをもつ。	図表と文章
	玄関扉 〈説明〉	・事実と意見と理由を読み分ける。 ・文化の違いについて自分の考えをもつ。	三角ロジック
	この小さな地球の上で 〈随想〉	・語句の意味を的確にとらえる。 ・ものの見方や考え方を広げる。	
2年	人間は他の星に住むことができるのか 〈説明〉	・全体と部分との関係に着目して読む。 ・構成について自分の考えをまとめる。	段落の大中小
	見えないチカラとキセキ 〈講演録〉	・選んだ本から適切な情報を得て、考えをまとめる。	
	壁に残された伝言 〈報告〉	・筆者の思いをとらえる。 ・筆者のものの見方や考え方をとらえ、自分の考えをもつ。	
	動物園でできること 〈評論〉	・例示の効果に注意して主張を読み取る。 ・筆者の考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ。	例示
	達人のことば 〈談話〉	・読み比べ、共通点と相違点を考える。 ・仕事や生き方について意見をもつ。	
3年	間の文化 〈評論〉	・論理の展開に注意して主張を読み取る。 ・文化の違いについて自分の考えをもつ。	対比
	フロン規制の物語 〈論説〉	・文章の展開の仕方・小見出しの意図や効果を考える。 ・「科学技術の発達」に対する筆者の考え、自分の考えを広げる。	小見出し
	情報社会を生きる 〈論説〉	・語句の効果的な使い方をとらえる。 ・文章の構成や表現の仕方を評価する。	
	「文殊の知恵」の時代 〈論説〉	・筆者の主張をとらえる。 ・社会について自分の考えをもつ。	

### 3 指導方針（◎は主題・副主題に関わる方針、◇は道徳教育に関わる方針）

◎5・6校時では、単元を通して習得した知識及び技能を活用して、自分の考えを表現する課題や活動を設定する。

- ◎めあてを示し、各時間のゴールを授業の最初に提示することで、生徒が見通しをもって授業に取り組めるようにする。
- ◎グループワークを多く取り入れ、生徒が友達との対話の中で自分の考えを広げたり、深めたりできるようにする。
  - ・ワークシートを毎時間準備し、生徒が自分の考えをもったり、友達と考えを交流したりすることに多くの時間を割けるようにする。
  - ・教師の説明は簡潔にし、考える時間や話し合う時間を十分に与えることで、自力解決する力を身に付けさせる。
  - ・授業の最初に前時までを振り返る時間を設け、既習事項を確認しながら学習を進めることで、本時の内容をより理解しやすくする。

### 【授業中における生徒指導】

#### ①共感的な人間関係をはぐくむ指導

- ・分からないことに対して、生徒同士で協力して解いたり教え合ったりできる場面や雰囲気をつくる。
- ・生徒同士で協力して考える場面では、自分の考えや意見をもった上で友達の意見を認め合えるようにする。

#### ②自己存在感を与える指導

- ・グループワークを取り入れて、自分の考えや意見を持ち、それを友達に伝える活動を多く設定し、学習に意欲的に参加できるようにする。
- ・全体での発表の機会を多くもたせ、生徒の細かな発言も含めていろいろな意見を取り上げ、生徒一人一人が学習に参加しているという意識を高めさせる。

#### ③自己決定の場を与える指導

- ・生徒一人一人の様々な見方や考え方、表現の仕方などを肯定的にとらえて助言や賞賛をするようにする。

#### ④人権教育に配慮

◇生徒の人権を尊重して、生徒の指名の際は呼称を付ける。

◇発表の際に友達の意見を十分に聞かせ、共感や質問などができるように促す。

## 4 単元の目標

- ・文章の全体と部分との関係や、例示の効果などに注意して、筆者の主張を読み取る。  
(読むこと イ)
- ・筆者の動物園に対する考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ。  
(読むこと エ)

## 5 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読むこと	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の主張を読み取ろうとしたり、それについて、知識や体験と関連付けて自分の考えをもとうとしたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の全体と部分との関係や、例示の効果などに注意して、筆者の主張を読み取っている。 (イ)</li> <li>・筆者の動物園に対する考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもっている。 (エ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抽象的な概念を表す語句、多義的な意味を表す語句などについて理解し、語幹を磨き語彙を豊かにしている。</li> </ul>

6 学習計画及び評価計画（6時間予定：本時はその5時間目）○おおむね満足☆十分満足

学 習 活 動	時間	評 価 項 目（方法）	観 点		
			関	読	言
<p>・本文を通読し、新出漢字・語句を確認し、動物園の役割と課題をとらえる。</p> <p>「つかむ」過程</p>	1	<p>○題名に興味を示し、動物園が何をする場所なのかの自分なりの考えをもつことができる。</p> <p>☆題名に関心を持ち、動物園が何をする場所なのかの自分なりに考えを広げることができる。</p> <p>（観察、ワークシート）</p> <p>○文章中の語句や表現の意味をとらえ、文章の概要を理解できる。</p> <p>☆文章中の語句や表現の意味を的確にとらえ、文章の概要や要旨を理解できる。</p> <p>（観察、ワークシート）</p>	○		○
<p>・3つの事例を整理し、表のタイトルを書き、具体例の内容を振り返る。</p> <p>「追究する」過程</p>	1	<p>○筆者が勤めている動物園において、「楽しみの場」と「学びの場」を両立させるために実践されている3つの事例をワークシートに整理できる。</p> <p>☆筆者が勤めている動物園において、「楽しみの場」と「学びの場」を両立させるために実践されている3つの事例を適切に要約し、ワークシートに整理できる。</p> <p>（観察、ワークシート）</p>		○	
<p>・筆者の主張を読み取り、例示の効果について考えるとともに、動物園のあり方について考えを広げる。</p> <p>「追究する」過程</p>	2	<p>○3つの事例の効果に注意しながら、筆者の主張を読み取ることができる。</p> <p>☆3つの事例の効果について考えを広げながら、筆者の主張を適切に読み取ることができる。</p> <p>（観察、ワークシート）</p>		○	
<p>・知識や体験と関連付けて、自分なりに動物園のあり方について論じる。</p> <p>「まとめる」過程</p>	2 本時は 1/2	<p>○反論の根拠について考えを広げ、反論文を直したり、書き足したりしながら、より説得力のあるものすることができる。</p> <p>☆反論の根拠について考えを広げ、反論文を直したり、書き足したりしながら、より論理的で説得力のあるものすることができる。</p> <p>（観察、ワークシート）</p> <p>○反論文を書く中で自分なりに動物園のあり方を論じることができる。</p> <p>☆反論文を書く中で自分なりに動物園のあり方を論理立てて論じることができる。</p> <p>（観察、ワークシート）</p>		○	

7 本時の学習

(1) 本時のねらい

反論の根拠について考えを広げ、反論文がより説得力のあるものになるよう、直したり、書き足したりすることができる。

(2) 準備

教師：教科書、ワークシート、模造紙、ペン

生徒：教科書、ファイル

(3) 展開

過程 (時間)	主な学習活動	指導上の留意点及び支援
つかむ (5分)	1. 前時までの学習を振り返る。 2. 本時のめあてを提示する。	・3人の主張。各班、誰に反論するか。前時に書いた反論文などを確認する。
	めあて：反論の根拠を考え、反論文をより説得力のあるものにしよう。	
追究 する (35分)	3. 反論の根拠を、班ごとに模造紙に書き出す。 <反論の根拠> ・反論相手の意見が実現したら起こりうる悪い結果 ・反論相手の意見の問題点 ・反論相手の意見に対する自分の意見とその理由 など 4. 書き出した反論の根拠を交流する。 ・反論相手と同じ班の模造紙を見る。 5. 前時に書いた反論文を添削する。 ・赤ペンで、前時に書いた反論文を直したり、書き足したりする。 6. 添削した反論文を班で交流する。	・全員に1本ずつペンを配り、思いついたことを書きこませる。 ・模造紙への書き込み方の例を提示し、生徒がスムーズに活動に入れるようにする。 ・「→」などを使って、1つの意見から関連することをさらに書けるとよいことを伝える。 (例：起こりうる悪い結果→何が問題か) ・他の班の反論の根拠でよいもの・共感できるものがあれば、自分のワークシートにメモしておくよう伝える。 ・自分の班の模造紙の記述や、他の班の模造紙を見てとったメモを参考にさせる。 ・内容の違う根拠を羅列するのではなく、関連するものをつなげて、1つの根拠について詳しく記述できると説得力が増すことを伝える。 ・友達の書いた文章が、より説得力のある反論になっているか、という観点で反論文を読むよう伝える。
まとめ (10分)	7. 本時の学習を振り返る。 ・自分の反論文がどう変わったか。	・「より説得力のあるものにしよう」というめあてを確認し、自分の反論文はより説得力のあるものになったか、どこが変わったかなどを考えさせる。

【評価項目】

○おおむね満足：反論の根拠について考えを広げ、反論文を直したり、書き足したりしながら、より説得力のあるものすることができる。

☆十分満足：反論の根拠について考えを広げ、反論文を直したり、書き足したりしながら、より論理的で説得力のあるものすることができる。

(観点：読むこと 評価方法：観察、ワークシート)

【成果と課題】

〔成果〕

◎生徒が自らの学びを自覚できていたことが、振り返りにまとめられていた。

◎班の活動で意見が深まり、深めた他の班の意見も取り入れることで、学びが深まった。

〔課題〕

●対話的な学びをより深めるために、よい点・改善点を班で交流し、確認できるとよかった。

# 社会科 学習指導案

令和2年11月9日(月)第2校時  
3年1組(教室) 指導者 津久井 仁美

## 授業の視点

実際の広告や商品のパッケージを見て、内容や工夫を調べ、購入する際の注意点などをグループで話し合わせたことは、学習したことを生活に生かそうとする意欲につながったか。

1. 単元名 「私たちの暮らしと経済」  
1 節 消費生活と経済                      2 契約と消費生活
2. 本時のねらい  
広告や商品パッケージを見て、書かれている内容や工夫について読み取り、購入する際の注意点などをグループで話し合うことができる。
3. 展開

過程(時間)	主な学習活動	指導上の留意点および支援
つかむ(5)	○前時の活動を振り返り、本時の学習活動について確認する。	・広告を配布し、活動意欲を高める。
	めあて：広告や商品のパッケージをよく見て、表示内容や工夫点を調べ、購入する際の注意点について話し合う	
追究する(38)	<p>&lt;個人&gt; 10分 ○広告の工夫を調べ付箋に書き、広告に貼る。</p> <p>&lt;発表&gt; ・全体で発表する。</p> <p>&lt;個人&gt;→&lt;グループ&gt; 18分 ○持参した商品のパッケージを見て何が書かれているか調べ、購入する際の注意点についてグループで話し合う。</p> <p>&lt;発表&gt; 10分 ○各班の意見を全体で確認する。</p>	<p>・さまざまな工夫がされた広告を数種類用意し、気付いた工夫を付箋に書かせ、広告に貼らせる。(広告：一人一枚、付箋：一人五枚)</p> <p>・自分が調べた広告を持って発表させる。 ・広告の種類別に、一人ずつ発表してもらう。</p> <p>・アイスクリームのパッケージをいくつか用意し、消費者に購入させる工夫に気付かせるとともに、「アイス」の中にも種類が違うものがあることを紹介し、意欲を高める。 ・持参した商品のパッケージをすみずみ確認させ、さまざまな事柄が表示されていることに気付かせ、初めて知ったことを中心にワークシートに書かせる。 ・まず商品購入の際の注意点を自分で考えたあと、グループ内で交流し、話し合わせる。 ・話し合いでは、記録者がホワイトボードにまとめ、発表することとする。(ホワイトボードやペンの使用は記録者のみが行う。) ・ホワイトボードを黒板に貼り、各グループの共通点や相違点をチェックする。</p>
まとめる(7)	<p>○本時の学習をまとめる。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p>	<p>・全体発表で出た意見をもとに、本時の学習をまとめる。 ・本時の学習でわかったことや今後の生活に生かしたいことなどを書かせる。</p>

### 【評価項目】

- おおむね満足  
広告や商品のパッケージを見て、表示内容やその工夫を読み取り、購入の際の注意点をまとめることができる。
- ◎十分満足  
広告や商品のパッケージを見て、表示内容やその工夫をたくさん読み取り、購入の際の注意点を適切にわかりやすくまとめることができる。

【観点】 資料活用の技能

【評価方法】 ワークシート、観察、発表

## 4. 成果と課題

### 【成果】

- ◎ねらいが明確で、学習の流れがぶれなかった。身近な題材であったことや話し合いでの役割分担がしてあったことでスムーズに話し合いができ、今後の生活に生かそうとする態度につながった。
- ◎個別の支援や意図的な指名、共通点や相違点などの視点を明確にしてのまとめ等で時間を有効に使えた。

### 【課題】

- 主体的・対話的な学びをにつながる、教師のコーディネーター的役割が今後も求められる。
- 今後も個の考えをよく見取り、授業を組み立て、生徒が自信をもって発表できるようにしたい。

授業の視点

モンゴルの襲来はどのようなものであったか調べたり、元寇後、御恩と奉公の主従関係が崩れたことを考察させたりする活動は、鎌倉幕府が滅亡した理由を理解するために有効であったか。

1. 単元名「東アジア世界との関わりと社会の変動」(1 モンゴルの襲来と日本)

2. 本時のねらい

鎌倉幕府が滅亡した理由を、モンゴル襲来の影響や元寇後の社会の変化から考えることができる。

3. 展開

過程 (時間)	主な学習活動	指導上の留意点及び支援
つかむ (5)	1. 前時の学習を振り返り、本時の学習の内容をつかむ。	・モンゴル帝国の成長やフビライの国書、日本の対応について復習する。
	めあて：なぜ、鎌倉幕府は滅亡したのだろうか～モンゴルの襲来から考えよう～	
追究する (35)	2. 鎌倉幕府の将軍と御家人の主従関係について復習する。	・御恩と奉公の主従関係を図で確認する。
	3. 鎌倉幕府が滅亡した理由を予想する。 4. 元寇について調べ、全体で確認する。 ①元軍と日本軍の戦い方の違い ②元軍の2度目の襲来が成功しなかった理由 5. 安達泰盛と竹崎季長の対話場面をもとに、元寇後、幕府への不満が高まった理由を考察し、全体で確認する。 ③なぜ、幕府に対して不満が高まったのか。 ・個人→セリフを考える ・グループ→個人で考えたセリフをまとめ、不満が高まった理由も考える。	・小学校での既習事項を引き出す。  ・服装や武器、戦法の違いに着目させる。 ・御家人の活躍や防壁、暴風雨の影響をおさえる。  ・2人の対談のセリフを考えさせる。 ・グループでまとめたセリフや、幕府に対しての不満が高まった理由を発表シートに記入させる。 ・キーワードとして「御恩」「奉公」を提示する。 ・各班の発表シートを回収し、全体で確認する。 ・恩賞を与えられない幕府を御家人は支持しないことを理解させ、元寇による多大な犠牲や出費があったことを補足する。
まとめる (10)	6. 本時の学習を踏まえ、めあてに対するまとめを行う。 7. 次時の学習の見通しをもつ。	・まとめが進まない生徒に対しては、グループ学習での友人の考えや、「御恩」と「奉公」などの重要語句を参考にまとめていくことを助言する。 ・元寇後の社会の変化について見通しをもたせる。

【評価項目】

○おおむね満足

鎌倉幕府が滅亡した理由を、御恩と奉公の主従関係の崩壊から考察することができる。

◎十分満足

鎌倉幕府が滅亡した理由を、土地を仲立ちとした御恩と奉公の主従関係の崩壊やその原因から考察することができる。

【観点】

思考・判断・表現

【評価方法】

ワークシート、観察、発表

4. 成果と課題

〈成果〉

◎問題解決的な授業ができていた。個人→小グループ→一斉→個人の流れにより思考を深めることができた。

◎「本時のめあて」をきちんと明示し、生徒が見通しをもって授業を受けることができた。

◎ICT機器を効果的に活用し、生徒の興味・関心を高め主体的な学びにつなげることができた。

〈課題〉

●課題に対して、個人で考える時間をとり、ワークシートにも予想を書ける欄を作ったほうがよかった。

●一部の生徒の意見だけではなく、様々な生徒の意見を拾い、意図的指名につなげられるとよかった。

# 数 学 科 学 習 指 導 案

令和2年7月21日(火) 第1校時

授業の視点

1年1組教室 指導者 田村晃宏

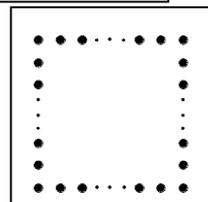
規則性のある事象を考察する場面において、話し合い活動を取り入れたことは、文字を用いた式の意味を考える上で有効であったか。

## 1 題材名 『文字と式』

2 本時のねらい 規則性のある事象を数学的にとらえる活動を通して、文字式が表す意味を考えられるようにする。

## 3 授業の流れ

学 習 活 動	時間	学習の支援及び留意事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>ウォーミングアップ</li> <li>次の問題を考える。</li> </ul>	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般的な文字式の処理法を思い出させ、授業への集中力を高める。</li> </ul>
例1：1辺に同じ個数の基石を並べて正方形の形を作ります。1辺が10個のとき、基石は何個必要でしょうか。		
<ul style="list-style-type: none"> <li>例1を解き、考え方を共有する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>1辺が2個、3個、4個のときについて黒板に示し、問題の意味の理解を促す。</li> <li>解き方が思いつかなければ実際に1辺が10個のときの図を書くように指示する。</li> </ul>
問1：1辺が $n$ 個のとき、基石は何個必要でしょうか。		
<ul style="list-style-type: none"> <li>問1を解く。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>例1の解き方を参考にして考えさせる。</li> <li>図の中に<math>n</math>を書き込むように指示し、黒板の図にも書き込む。</li> <li>解けた生徒を指名し、解き方を発表させる。解けなかった生徒は黒板と一緒に解き方を確認する。</li> </ul>
$n \times 4 - 4 = 4n - 4 \text{ (個)}$		
<ul style="list-style-type: none"> <li>次の問題を考える。</li> </ul>	25	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のめあてを示す。</li> </ul>
問2：次に示した式は全て1辺が $n$ 個のときの基石の個数を表しています。どのような考え方が分かるように、図や文章で説明しましょう。		
$\textcircled{1} 4(n-1) \quad \textcircled{2} 4(n-2)+4 \quad \textcircled{3} 2n+2(n-2) \quad \textcircled{4} n^2-(n-2)^2$		
<ul style="list-style-type: none"> <li>問2を解く。</li> <li>グループで話し合う。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>最初は個人で考える時間を取り、自分の考えをもたせる。</li> </ul>
<p>【数学的な見方や考え方】 評価項目 (方法：観察・発言・ワークシート) (○：B規準、☆：A規準)</p> <p>○規則的に増える数量についての式が、何を意味しているのか考えることができ、図や文章で表現できる。</p> <p>☆規則的に増える数量についての式が、何を意味しているのか考えることができ、図や文章を用いて説明できる。</p> <p>〔具体的な生徒の姿〕 &lt;生徒への支援&gt;</p> <p>△文字の意味することが何なのか見当が付かない。 → <math>n</math>は1辺の個数だから<math>(n-1)</math>は1辺から1個引いたもの、4は4辺などと正方形の図との対応を示す。</p> <p>○いくつかの考え方を図や文章に表せた。 → 賞賛し、グループで考えを共有したり、他の問題に取り組んだりさせる。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>発表用拡大図を黒板に貼り発表する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>説明で不足している部分を補う。</li> <li>説明しきれなかった式については解答を配布する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りをする。</li> </ul>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字や文字を用いた式を利用して考えることの良いところを実感させる。</li> </ul>



〔成果〕 ◎考えるヒントとなるワークシートが用意されたことで生徒の思考が可視化され、思考が深まる様子が見て取れた。

◎課題の難易度が適切で、中位の生徒だけでなく、上位の生徒も達成感を得られるように工夫されていた。

◎ワークシートを見せ合ったり、意図的な指名で生徒の考えを全体に伝えたりすることで、新しい生活様式の中でも生徒同士の対話的な学びが保証されていた。

〔課題〕 ●できていない生徒への対応に不十分なところがあり、限られた時間の中でも丁寧に説明していく必要性があった。グループワークを工夫することも視野に入れておくとよい。

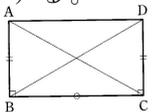
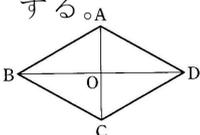
# 数学科学習指導案

令和3年1月19日 第1校時  
2学年2組（男子17名、女子8名 計25名）2年2組教室  
指導者 町田 実

## 授業の視点

証明の書き方を穴埋め形式にしたことやパワーポイントで考え方を説明したこと、そしてグループで証明の方法を考えさせたことは、特別な四角形の証明をするのに有効であったか。

1. 題材名 三角形と四角形
2. 本時のならい 特別な四角形の定理を証明することができる。
3. 授業の流れ

学 習 活 動	時間	指導上の留意点及び支援
○平行四辺形の定義・定理を確認する。 めあて 特別な四角形(長方形・ひし形)の定理を証明しよう。	8	○ポイントカードで確認し提示しておく。
<p>&lt;長方形の場合&gt;</p> <p>○長方形の定義・定理を確認する。</p> <p>○長方形の対角線の定理を証明する。</p>  <p>○個人で考えた後、グループで考える。</p> <p>○証明を確認する。</p> <p>&lt;ひし形の場合&gt;.</p> <p>○ひし形の定義・定理を確認する。</p> <p>○ひし形の対角線の定理を証明する。</p>  <p>○個人で考えた後、グループで考える。</p> <p>○証明を確認する。</p>	4 7	<p>&lt;長方形の場合&gt;</p> <p>○パワーポイントで図形と連携させながら確認していく。</p> <p>○合同の証明を利用することを説明する。 Bの生徒：合同の証明ができる。 支援：合同の図形の性質を指導する。 Cの生徒：合同の証明ができない。 支援：穴埋めの形式の証明を板書する。</p> <p>○各グループで証明ができた生徒の解答を確認できない生徒へ支援させる。</p> <p>○解答を確認していく。</p> <p>&lt;ひし形の場合&gt;</p> <p>○パワーポイントで図形と連携させながら確認していく。</p> <p>○合同の証明を利用することを説明する。 Bの生徒：合同の証明ができる。 支援：平角180°に着目させる。 Cの生徒：合同の証明ができない。 支援：穴埋めの形式の証明を板書する。</p> <p>○各グループで証明ができた生徒の解答を確認できない生徒へ支援させる。</p> <p>○答えを確認していく。</p>
○正方形の定義・定理について考えながら、本時の振り返りをする。	5	○本時を振り返りながら正方形の定義・定理を確認していく。

## 【評価項目】

- おおむね満足 特別な四角形の証明ができる。  
◎十分満足 特別な四角形の証明の方法を説明できる  
(数学的考え方：ワークシート、発言)

## 〔成果〕

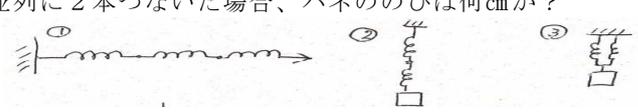
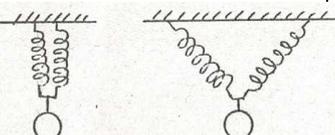
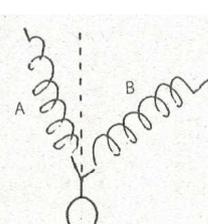
- ◎グループ学習で対話的な活動で多様な考えを引き出すことができた。
- ◎ICT機器の活用により、興味、関心が高まり、より主体的な学びにつながった。

## 〔課題〕

- グループで問題を考える展開であるなら、ヒントなしで考えさせることにより多角的な考えを引き出させるのに効果的である。

授業の視点  
映像をみながら、課題について予想させたことは、力の合成をイメージさせる上で、効果的であったか。

- 1、テーマ 「力のたし算」
- 2、本時のねらい 力の合力が、平行四辺形の法則によってできることをイメージさせる。(知識・理解)
- 3、展開

学習活動	時間	学習への支援・留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容の提示</li> <li>映像を見せ、力の合力を知る。</li> </ul>	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のテーマ「力をたし算するには…」の記入。</li> <li>バネの性質、力の矢印、合力の考え方を映像からとらえさせたい。</li> <li>ただ、映像が長いので、興味関心が薄れてしまう生徒もいるだろう。途中で映像を止めて、生徒に挙手で予想させたい。</li> <li>①バネを3本横につないで引っ張った場合の3本ののびは同じか？</li> <li>②バネを縦に2本つないだ場合の、2本のバネののびは同じか？</li> <li>③バネを並列に2本つないだ場合、バネののびは何cmか？</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>一時停止し、バネの力はたし合わせることを確認、合力という言葉を紹介する。</li> </ul>
<p>同じ長さで同じ強さのバネが2本あります。アのように平行にしておもりをつり下げたとき、イのように斜めにしてつり下げたときでは、バネののびはどう違うでしょうか？</p> 		
<ul style="list-style-type: none"> <li>選択肢を選び、自分の予想をたてる。</li> <li>映像で結果を確認。</li> </ul>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>プリントの課題を読み、自分の考えを書かせる。</li> <li>選択肢から選ばせ、理由も考えられる生徒には、書いてもらう。</li> <li>考えがわかるだろう。理由があれば、述べてもらう。</li> <li>「たし算、合力」という言葉が出されたら賞賛し、全体で確認する。</li> <li>映像で確認させる。映像の中でいくつかの考え方が出てくるので参考にさせる。考えが変わった生徒がいるか、確認する。</li> <li>合力の求め方(平行四辺形)を視聴させる。詳しくは解説しない。</li> </ul>
<p><b>課題</b> バネを左右の傾きを変えてつるします。それぞれのバネののびはどうなるでしょうか？</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対する自分の考えを書く。</li> <li>自分の考えに挙手し、理由を述べる。</li> </ul> <p>(交流)</p>	10  10	<ul style="list-style-type: none"> <li>バネのようすを、黒板に貼りながら説明する。</li> <li>選択肢から選び、理由についても考え、書くように伝える。</li> <li>机間を回りながら、生徒の考えを掴む。</li> <li>班の中でも考え方が違うだろう。相談させてみる。</li> <li>挙手させ、それぞれの理由を述べさせる。</li> </ul>  <p>「どちらも同じ」：前の場合と同じで、バネに加わる力は同じ、合力は同じ…など。          「Bが長く伸びる」：前の場合と同じで斜めだから、Bが中心から離れている…など。          「Aが長く伸びる」：重力がかかる、合力を考えると…など。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平行四辺形で考えている生徒がいたら、考え方を紹介し、全体で確認する。</li> <li>黒板で、バネの演示を示し、結果を確認する。</li> <li>映像の続きを見せ、平行四辺形の合力の求め方を視聴させる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りをする</li> </ul>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>「わかったこと」を振り返りとして書かせる。</li> </ul>
<p><b>【観点】</b> ○ 平行四辺形で、合力を求めることができる。          ○ Aの方がのびた。合力の求め方がわかった。          ☆ 角度のある力の合力は、平行四辺形を書き、その対角線が合力になる。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>発表させる。</li> </ul>		

〔成果〕

- ◎教師がコーディネーターになることで、生徒の主体的な学びが高まる。自分の考えをグループで、交流しあう雰囲気ができていた。
- ◎動画に集中していた。動画が討論の補助的な役割をしていた。映像資料によって、合力がイメージしやすかった。

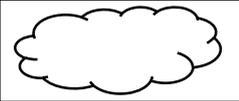
〔課題〕

- 振り返りの時間、発表の時間がなく、生徒の変容がつかめなかった。次時で紹介できると良い。

# 理科学習指導案

令和2年10月28日 第1校時  
2学年1組 理科室 指導者 星野 杏奈

1. 単元名 気象観測と雲のでき方 「雲のでき方」
2. 本時のねらい 雲のできる高さの違いについて、既習事項を基に、モデル図を用いて考えることができる。
3. 展開

過程 (時間)	主な学習活動	指導上の留意点及び支援
つかむ (10分)	<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雲の絵を描く。</li> <li>・数枚の実際の雲の写真を見て、自分が描いた雲との相違点を考える。</li> <li>・前時までの学習を想起しながら、雲ができるまでの気圧、気温、湿度の変化のしかたを再度、確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに、直感的なイメージで雲の絵を描かせる。 〈描いてほしい雲〉 </li> <li>・実物の写真を掲示し、雲の下が水平に切れていることに気付かせる。</li> <li>・雲の発生メカニズムについて、気温・気圧・湿度の3つの観点に注目させ、雲ができ始める高さが「露点」を越えたときであることを気付かせ、雲の下が切れている理由と結びつかせる。</li> <li>・雲はさまざまな高さにできることを伝え、雲をつくるもととなる水蒸気を含んだ空気がどのように異なるのかと発問し、本時の課題を提示する。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>〔課題〕 雲のできる高さの違いについて考えよう。</p> </div>		
追究 する (35分)	<p>2 自分の考えをもち、交流する。 個→グループ→全体</p> <p>3 発展課題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飛行機雲ができるときとできないときがあるのはなぜかを考える。(個人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雲の高さと空気の状態(空気にふくまれる水蒸気の量)との関係について個人で考える時間を確保する。</li> <li>・グループでの交流の際には、各グループの進行状況を確認して、適宜助言を行う。</li> <li>・いくつかのグループの代表者に発表させる。</li> <li>・まず、自分なりの考えを思うように書かせる。考えを書けない生徒がいたら、先ほど考えた空気の状態が関係していることをヒントとして伝える。</li> </ul>
まとめ (5分)	<p>5 本時を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時を振り返り、「何を学んだか」「どのように学んだか」を書かせたり発表させたりして、本時の学びを自覚させる。</li> <li>・飛行機雲と天気の関係について知らせて、日常生活の中で観察してみるように伝える。</li> </ul>

## 【評価項目】

- おおむね満足 雲のできる高さの違いについて、モデル図を用いて、気圧、気温、湿度の変化と関連付けて考えることができる。
- ◎十分満足 雲のできる高さの違いについて、モデル図を用いて、気圧、気温、湿度の変化と関連付けて考えることができる。  
また、飛行機雲のできやすさについて、学習した語句を基に説明することができる。

(思考・判断：観察・記録)

## 4. 成果と課題

〈成果〉

- モデル図を使って考えることや、教師の個別支援で、水蒸気量と結びつけて考えられていた。
  - 習得した知識(雲のできる高さの違い)を活用できていた。飛行機雲(高さは一定)という設定もよかった。
  - 飛行機雲を日常生活と結びつけることで、学びがより深まった。コロナ禍における交流の工夫も見られた。
- 〈今後に向けて〉
- 今後も、習得した知識を活用する課題やワークシートの工夫、さらには日常生活と結び付けて深い学びができるようにしていく。

## 英語科学習指導案

令和3年3月22日(月)第4校時

2年1組 3階多目的ホール 指導者 佐俣 あずさ、林 秀紀

ALT Kelly、David、Peter、Adrian

- 1 単元名 English conversation circuit (英会話サーキット)
- 2 本時のねらい 簡単な語句や文を用いて ALT や教師と英語で会話をしたり、質問に答えたりすることができる。
- 3 展開

学 習 活 動	時間	学習の支援及び留意事項
・あいさつ ・ALTによる自己紹介	5	・久しぶりに会う ALT もいるため、自己紹介をしてもらう。
・本時のめあてを確認する。  ・移動	2	<p style="text-align: center;">Let's enjoy conversation with ALTs!</p> <p>・あらかじめ本時の流れや内容を伝え、移動の仕方を示したワークシートを生徒に渡しておく。</p>
・会話活動	38	<p>・3人1グループとなり、ALT や教師がいるブースを回り会話をする。</p> <p>・各ブースでの会話時間は4分、移動時間は20秒とする。</p> <p>・会話のトピックはあらかじめ生徒に伝えておき、3回ごとにトピックを変更する。</p> <p>・毎回簡単な自己紹介から始め、会話を始める人や質問に答える人がグループ内で毎回同じにならないよう声をかける。</p> <p><b>【トピック】</b></p> <p>①ALTからの質問に答える</p> <p>②ALTに対して質問をする</p> <p>③好きなもの・こと(食べ物、スポーツ、祭り、アニメ等)</p> <p>・会話の後でALTに評価シートを記入してもらう。</p> <p>・待っている生徒はALTからの評価を確認したり、自己評価を記入したりして、反省点などを次の会話につなげられるようにする。</p> <p>・教師は巡回しながら生徒の頑張りを認め、励ます。</p>
・振り返り	5	<p>・ALT 1～2名に本時の感想を言ってもらおう。</p> <p>・ワークシートに振り返りを記入させ、本時の学習を整理する。</p>

### 【評価項目】

- おおむね満足：簡単な語句や文を用いて、ALTに質問をしたり、聞かれたことに答えたりすることができる。
- ☆十分満足：簡単な語句や文を用いて、ALTに質問をしたり、聞かれたことに答えたりことができ、さらに会話を継続することができる。

【観点】表現(話すこと・やり取り)      【評価方法】ワークシート、観察

### 4 成果と課題

- 生徒達が学んだことを生かし、英語で話そうと努力している姿が見られた。
- 回数を重ね、何度も会話することで生徒が自分の気持ちをだんだん上手に伝えられるようになった。
- 時間配分や、ALTからの丁寧なフォローがあり、生徒が楽しく取り組んでいた。
- ALTに対して質問をする回でも、ALTに質問にしてもらい、答えている生徒が多かったので、生徒からもっと質問ができると良い。

## 音楽科学習指導案

令和3年3月25日(木) 第2校時  
1年1組パソコン教室 指導者 南雲 祐樹

授業の視点  
パソコンと楽譜ソフトを用いて創作させる活動は、思いや意図を音に表そうと繰り返し試行錯誤する意欲につながったか。

- 1 題材名 「今年の漢字を曲にしよう」
- 2 本時のねらい 音高を工夫し、曲を自分の表したいイメージに近づけようとする事ができる。
- 3 授業の流れ

過程 (時間)	主な学習活動	指導上の留意点及び支援
つかむ (5)	○前時までの学習内容を振り返り、本日の学習内容を確認する。	
めあて：表したいイメージに近づくように、音の高さを変化させよう。		
追究する (35)	○楽譜ソフトの操作方法を確認する。  ○音高を、聴き試しながら変化させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和声から大きく外れることのないよう、強拍の音の高さは変化させないよう指導する。</li> <li>・強拍の音に丸をつけたワークシートを見ながら活動することが難しい生徒には、ソフト上の強拍の音符の色を変える支援を行う。</li> <li>・どの音の高さを変えるか見失わないよう、一つずつ音高を変えるように声掛けをする。</li> </ul>
<p>評価項目</p> <p>【音楽表現の創意工夫】(方法：観察、作品) <span style="float: right;">(○：B規準、☆：A規準)</span></p> <p>○試行錯誤を繰り返して音高を変化させ、曲を自分の表したいイメージに近づけようとしている。</p> <p>☆試行錯誤を繰り返して音高を変化させ、曲を自分の表したいイメージに近づけることができる。</p> <p>〔具体的な生徒の姿〕 <span style="float: right;">＜生徒への支援＞</span></p> <p>△音高を動かすことができない。 <span style="float: right;">→ 動かして良い音を示し、音高の操作と試しに聴くことを交互に繰り返すように説明する。</span></p> <p>○音高を動かして和声に則した旋律できた。 <span style="float: right;">→ 賞賛し、自己の表したいイメージと作品との結びつきが強い部分を探すように促す。</span></p>		
	○でき上がった譜面を印刷する。	・音符の色を変えた生徒もいるので、グレーカラーで印刷するように指導する。
まとめる (10)	○印刷した楽譜に振り返りを記入する。	・本単元で中心となった「表したいこと」と「知覚」のつながりを意識した振り返りになるように声掛けをする。

〔成果〕 ◎ICT 機器の活用により、楽器が演奏できない生徒も、意欲的に作曲をすることができた。  
◎作曲ソフトの活用と教師のコーディネートにより、どの生徒もそれなりの曲になっていた。

〔課題〕 ●生徒同士、お互いの作品を聴きあう時間があつた方がよかった。

# 保健体育科学習指導案

令和2年10月14日 5校時  
1年1組校庭 指導者 植木 毅

## 授業の視点

情報機器を使い、自分の動きを確認しながら練習したことは、生徒が正しい動きをマスターし、自己の課題を克服するために有効であったか。

- 1 単元名 C陸上運動「走り幅跳び」
- 2 本時のねらい  
情報機器を活用し幅跳びの技能ポイントと関連づけ、課題克服のための練習ができる。
- 3 展開

過程	主な学習活動	指導上の留意点及び支援
つかむ10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合、あいさつ。</li> <li>・本時のねらい「幅跳びの技能ポイントと関連づけながら、課題克服のための練習ができる」を知る。</li> <li>・各自のめあての確認をする。</li> <li>・準備運動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人が、本時の学習内容を明確に理解できるようにする。</li> <li>・数名の生徒にめあてを発表させ、各自のめあてや課題の意識化を図る。</li> <li>・ケガをしないように、体操やストレッチをさせる。</li> </ul>
追求する35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅跳びの技能ポイントの説明を行う。</li> <li>①助走距離や助走の歩数のリズム</li> <li>②踏切</li> <li>③空中動作の動き</li> <li>④着地の動き</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技能ポイントをふまえ、自分自身の課題克服のための練習を行う。</li> <li>①助走距離や助走の歩数のリズム</li> <li>②踏切</li> <li>③空中動作の動き</li> <li>④着地の動き</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①踏み切り前では、「タ、タ、タン」と素早く3本のラインを踏んで、足裏全体で踏み切ることができるように説明する。</li> <li>②足裏全体で踏み切り、斜め上方に設置されたゴムに両手で触れることの意味を説明する。</li> <li>③踏み切り板を使って踏み切り、空中動作からかがみ跳びについて説明する。</li> <li>④足から着地し、着地した足のところへおしりを着く動作の説明を行う。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>①踏み切り前では、「タ、タ、タン」と素早く3本のラインを踏んで、足裏全体で踏み切るタイミングの取り方を、手拍子などを使い説明する。</li> <li>②足裏全体で踏み切り、斜め上方に設置されたゴムに両手で触れさせるために、目線の取り方や腕の上げ方について必要に応じて説明する。</li> <li>③踏み切った後の空中動作やかがみ跳びについて、跳びやすいかたちを考えさせる。</li> <li>④足から着地し、着地した足のところへおしりを着くことができるように、足を砂の中に潜らせるように説明する。</li> <li>・一つ一つの課題が克服できたら、カードに記入させていく。</li> </ul>
まとめる5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を振り返り、めあての達成やできるようになったことを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を振り返り、よくできた点、課題などを考えさせ、次時のめあての目安をもたせる。</li> </ul>

### 【評価項目】

- おおむね満足・走り幅跳びの技能ポイントと関連づけ、自分の課題を克服できるように取り組んでいる。(観察・学習カード)
- ◎十分満足・・・走り幅跳びの技能ポイントと関連づけ、工夫しながら自分の課題を克服できるように取り組んでいる。(観察・学習カード)

### 【成果】

- ◎タブレットを活用したことで、今できる主体的対話的な学びにつなげることができた。
- ◎4つの技能ポイントの設定と練習場所の設定が、生徒の主体的な学びにつながった。

### 【課題】

- このような学習を続けていく中で、一人一台タブレットをもったとき、タブレットを効率よく使用していく方法を確立していく必要がある。

# 技術科学習指導案

令和2年12月15日(火) 第2校時

1年1組 技術室 指導者 内田 共平

- 1、題材名 「生活の課題を解決する製作品を製作しよう」 (A・材料と加工)
- 2、ねらい グループでの意見交流を通して、自分の製作品の構想を修正・改善ができる。
- 3、展開

過程	学習活動	学習の支援及び留意事項
つ か む  (5)	1 本時のめあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に製作した模型をもとに、グループで意見を出し合い、作品の構想を修正や改善をしていくことを伝える。</li> <li>・作品の構想には、自分の視点だけでなく、他の人の視点(使用者)も必要になってくることを気づかせめあてを引き出させる。</li> </ul>
<b>めあて よりよい作品にするためにグループで話し合い、修正・改善をしよう</b>		
追 究 す る  (35)	2 課題を見いだす視点を出し合う。 3 グループで自分の作品のアピールポイント(作品を作るにあたり自分が重視したことや工夫点)を発表し合う。 ・発表をもとにグループの他の生徒の作品のよい点、疑問点や改善点を考え、付箋紙に書く。 4 気づいた点をグループで出し合う。 ・他の生徒の作品のよい点疑問点、改善点の意見を交流し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既製品の活用の授業を想起させることで、使いやすさ・丈夫さ・安全性・作りやすさなどの視点を出させる。</li> <li>・よりよい設計にするために、似たような設計の生徒同士でグループ編成する。</li> <li>・個々の作品のよい点、疑問点、改善点を出し合うことができるように、グループでそれぞれのスケッチを見たり、アピールポイントを発表し合ったりさせる。</li> <li>・よい点は青の付箋紙、疑問点や改善点はピンクの付箋紙に書かせ、製作者のプリントに貼るように伝える。</li> <li>・グループで意見を出し合わせる。よいと思ったこと、疑問に感じたことを考え、自分の言葉で伝え合わせる。</li> <li>・設計の修正に生かせるようにするために、数名の生徒を指名しクラス全体に紹介する。</li> </ul>
ま と め る  (10)	5 意見交流をもとに、設計を修正する。 6 本時の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見を出し合うことで得た意見をもとに、修正するように促す。ただし、自分の作品のねらいに合わない意見は取り入れなくてもよいこととともに、合わない理由を書くように指示する。</li> <li>・新たにわかったことや、今後の製作にどのように生かしたいかを書くように促す。</li> </ul>

### 【評価項目】

- おおむね満足 自分の作品をよりよくするために、意見交流で出た意見をもとに、修正・改善できる。
- ◎ 十分満足 自分の作品をよりよくするために、意見交流で出た意見をもとに、使いやすさ、丈夫さ、安全面、作りやすさの視点から修正・改善できる。 【工夫・創造：観察・ワークシート】

成果：めあてを生徒から引き出すことができた。

模型を提示しながら、課題をつかませることができた。

課題：余分な説明が多い。

やることの統一ができていなかった。(○分間でその生徒の作品について話し合うこと)

2人の班と4人の班ができてしまった。

# 学級活動指導案

令和2年10月16日 6校時  
1年1組教室 指導者 登坂 俊介

- 1 議題 「学級をよりよくする提案について話し合おう」 内容(1)-ア  
2 ねらい

学級の課題を自分事として捉えて自分の考えをもち、異なった考え方を受け入れながら主体的に話し合い活動を行い、よりよいクラスを作るために自分たちに何ができるのかを考えながら合意形成を行うことができる。

## (2) 本時の展開

	主な学習活動 (司会者・発表者) ○生徒の反応	・指導上の留意点	時間
つ か む	①初めの言葉 (学級委員) ②提案者の紹介 (学級委員) ③議題の提案とその理由 (「道しるべ係」)  <個別活動> (5分) ・バタフライ・チャートに賛成、反対意見を記入する。	・学級委員には現状の学級課題について話し合うことを伝えさせる。  ・バタフライチャートへの記入の仕方を確認する。	10
	○実際の生徒の反応 ・賛成もしくは反対が書けない。 支援：自分がそれを今後実際に実行していくとなったときにどうかを考えさせ、率直な意見を書くよう声かけをする。	・バタフライ・チャートに記入する際は自分の率直な意見を書かせる。 ・書けない生徒に対しては素直に自分が思うことを書くよう声かけを行う。 ・賛成・反対を書き込んだ生徒にはその理由も考えるよう伝える。	
	④話し合いのめあての確認 (教師)  めあて よりよいクラスにするために道しるべ係からの提案を練り直し、クラスで取り組むことを話合って決めよう。		
出 し 合 う ・	合意形成5つのポイント ①自分の事として考える。 ②自分の意見をもつ。 ③友達と意見を伝え合う。 ④友達の意見のよいところを見つける。	・本時のめあてを班別協議に入る直前に全体で確認することによって、話し合いの視点がぶれないようにする。 ・「合意形成5つのポイント」を確認し、本時では⑤に重点を置き	20

<p>比べ合う</p>	<p>⑤みんなが納得する意見を協力して決める。</p> <p>⑤班別協議</p> <p>1. 賛成・反対の確認</p> <p>2. 賛成の人の意見とよりよくする方法</p> <p>○賛成意見の実際の反応</p> <p>・道しるべ系の意見に賛成。なぜならば普段からしっかりとできていないから。授業終わりに予定を聞けば効率的だと思う。</p> <p>3. 反対の人の意見と代案</p> <p>○反対意見の実際の反応</p> <p>・道しるべ系の意見に反対。なぜならば昼休みなどは遊びたいから。代案として授業終わりに予定を聞けばよいと思う。</p> <p>・道しるべ系の意見に反対。なぜならば書いたものをチェックする人がいないから。代案として隣の席の人とチェックし合えばよいと思う。</p> <p>4. 質問・協議</p> <p>・班の意見の確認 (ホワイトボード)</p> <p>○班はこの提案に(賛成・反対)です。 その理由は、</p> <p>_____</p> <p>(賛成の場合) よりよくするために、</p> <p>(反対の場合) 代案として、</p> <p>_____</p>	<p>て話合うことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各班の代表者には、「話し合い進行表」に沿って司会を行うよう声かけを行う。</li> <li>発表を最後まで行わせるためにも途中で質疑応答はせず、最後にまとめてすることを確認する。</li> <li>それぞれの意見を発表しているときに、バタフライ・チャートに他の人の考えを記入させる。ここでは賛成・反対が変わってもよいことを確認させる。</li> <li>賛成意見の場合はよりよくするためには何を付け足せば良いか、反対意見の人には代案としてどのようにすれば良いかを考えさせる。</li> <li>話し合いが上手く進んでいない班に対しては再度本時のめあてに立ち返らせ、話し合いの目的を確認する。</li> <li>班での意見を集約する際には、班の立場とその理由をホワイトボードに記入させ、黒板に掲示させる。</li> <li>提案者は各班を回り、意見をバタフライ・チャートに記入する。</li> </ul>	
<p>まとめ</p>	<p>⑥全体協議 (学級委員)</p> <p>・賛成意見とよりよくする方法の発表</p> <p>・反対意見と代案の発表</p> <p>・質問・協議</p> <p>○実際の生徒の反応</p> <p>・合意形成をしながら「クラスで取り組むこと」を決めることができない。</p> <p>支援：班ごとの意見のよいところに目を向けさせ、それらを合わせてクラスで取り組むことを考えるよう声かけを行う。</p> <p>⑦先生からの話 (教師)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体協議に入る前に本時のめあてを全体でもう一度確認し、「クラスをよりよくするための話し合い」であること、「みんなの意見をうまく取り入れること」を意識させてから全体協議に入らせる。</li> <li>班別協議と同様に賛成意見から先に発表させる。また、同様の意見の場合は重複しない部分のみ発表させる。</li> <li>決定した意見を学級委員が黒板</li> </ul>	<p>1 5</p> <p>5</p>

⑧振り返り	に書き、全員がプリントに記入できるようにする。 ・めあてについて評価しながら、よかったところについて称賛する。 ・各自の取組について振り返りを記入させる。
-------	---

### 3 成果と課題

#### 成果

- ・自分の意見をもたせるための支援をしたことにより、クラスの課題を自分事として捉え、真剣に話合うことができた。
- ・友だちの意見をバタフライチャートに記入することで、自分の意見と比較しながら考えることができた。(図12)
- ・バタフライチャートを使い、意見を可視化したことで活発な話し合い活動になった。

#### 課題

- ・合意形成に対する手立てが不十分で合意形成まで行かなかった。
- ・反対意見の班が1班のみだったので、全体を賛成意見にまとめ、提案に対しての付け足しという観点で話し合いを進め、スムーズに全体の合意形成を行った方がよかった。
- ・良い意見が出ていたにも関わらず、教師が取り上げてあげられなかったので全ての意見に触れ、取り上げてあげる必要がある。